

及高等教育會議に諮問せしに、何れも審議の未許容を可とするに決せり。依て自今文部省に於ては教科書檢定又は編纂の場合にも之を應用せんとする。

#### 第四十一章 國語科教授要旨

##### 一 小學校の國語科

國語ハ普通ノ言語、日常須知ノ文字及文章ヲ知ラシメ、正確ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ養ヒ、兼テ智徳ヲ啓發スルヲ以テ要旨トス。  
尋常小學校ニ於テハ初ハ發音ヲ正シ、假名ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方ヲ知ラシメ、漸ク進ミテハ日常須知ノ文字及普通文ニ及ボシ、又言語ヲ練習セシムベシ。

小學校の國語科

高等小學校ニ於テハ稍々進ミタル程度ニ於テ日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方ヲ授ケ又言語ヲ練習セシムベシ。

讀ミ方、書キ方、綴リ方ハ各々其ノ主トスル所ニ依リ教授時間ヲ區別スルコトヲ得ルモ、特ニ注意シテ相聯絡セシメンコトヲ要ス。

讀本ノ文章ハ平易ニシテ國語ノ模範ト爲リ、且兒童ノ心情ヲ快活純正ナラシムルモノナルヲ要シ、其ノ材料ハ修身・歴史・地理・理科其ノ他生活ニ必須ナル事項ニ取り、趣味ニ富ムモノタルベシ。

女兒ノ學級ニ用フル讀本ニハ、特ニ家事上ノ事項ヲ交フベシ。  
文章ノ綴リ方ハ讀ミ方又ハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項、兒童ノ日常見聞セル事項、及處世ニ必須ナル事項ヲ記述セシメ、其ノ行文ハ平易ニシ

テ旨趣明瞭ナランコトヲ要ス。

書キ方ニ用フル漢字ノ書體ハ楷書・行書ノ一種、若クハ二種トス。

國語ヲ授クル際ニハ常ニ其ノ意義ヲ明瞭ニシ、且既修ノ文字ヲ以テ通常ノ人名・地名等ニ應用セシメ、單語・短句・短文ヲ書取ラシメ、若クハ改作セシメ、假名及語句ノ用法ニ習熟セシメンコトヲ務ムベシ。

他ノ教科目ヲ授クル際ニ於テモ常ニ言語ノ練習ニ注意シ、又文字ヲ書カシムルトキハ其ノ字形及字行ヲ正シクセシメンコトヲ要ス。

(小學校令施行規則教則第三條抄)

### 第四號表抄

學年 每週教授時數

- 第一學年 一〇 發音、假名及近易ナル普通文ノ讀ミ方、綴リ方、話シ方。
- 第二學年 一二 假名、日常須知ノ文字及近易ナル普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方、話シ方。
- 第三學年 一四 日常須知ノ文字及近易ナル普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方、話シ方。
- 第四學年 一四 日常須知ノ文字及近易ナル普通文ノ讀ミ方、綴リ方、話シ方。
- 第五學年 一〇 日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方、話シ方。
- 第六學年 一〇 日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方、話シ方。

### 第五號表抄

- 學年 每週教授時數
- 第一學年 八 日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方。

第二學年 八

日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方。

第六號表抄

學年 每週教授時數

第一學年 八

日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方。

第二學年 八

日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方。

第三學年 八

日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方。

### 二 師範學校の國語漢文及習字科

國語及漢文ハ普通ノ言語文章ヲ了解シ、正確且自由ニ思想ヲ表出スルノ能ヲ得シメ、小學校ニ於ケル國語教授ノ方法ヲ會得セシメ、兼テ文學上ノ趣味ヲ養ヒ、智德ノ啓發ニ資スルヲ以テ要旨トス。

師範學校の國語漢文及習字科

國語及漢文ハ現時ノ國文ヲ主トシテ講讀セシメ、進ミテハ近古ノ國文ニ及ボシ、又言語ノ使用ニ熟練セシメ、實用簡易ナル文ヲ作ラシメ、文法ノ大要ヲ授ケ、又平易ナル漢文ヲ講讀セシメ、且教授法ヲ授クベシ。

(師範學校規程)

學科及其ノ程度第十條抄

習字ハ文字ヲ端正且敏速ニ書寫スルノ能ヲ得シメ、且小學校ニ於ケル國語書キ方教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス。

◎習字ハ姿勢及執筆ヲ正シ、運筆ノ方法ヲ授ケ、楷書・行書ヲ主トシ、草書及假名ニ及ボシ、兼テ細字ノ速寫及黑板上ニ於ケル練習ヲ爲サシメ、且教授法ヲ授クベシ。(同上第二十條)

甲號表抄 (男生徒ノ每週教授時數)





範 師 國 語

文 部 省 檢 定 濟

東京高等師範學校教授 吉田彌平先生編

師範學校 國文教科書 本科用

師範學校 國文教科書 第二部用

師範學校 國文教科書 豫備科用

師範學校 國文教科書 講習科用

修正 和裝美本全六  
十二版 正價 卷一、二各金參拾五  
郵稅 各卷四、六各金參拾五  
錢

四修 和裝美本全五  
版正 郵稅 各金參拾五  
錢

三訂 和裝美本全參  
版正 郵稅 各金拾五  
錢

新刊 和裝美本全四  
郵稅 各金參拾五  
錢

師範學校には自ら師範教育本來の目的あり、要求あり、従つて其教科書は當に此目的要求に應じて特別に編著せられたるものたるべきは固より言ふまでもなし。即ち本書は此の點に留意し、多年の研鑽によりて編著せられたるもの、稿成りて後更に經驗と識見とに富める教育家の批評を請ひて、幾多の修正を加へ公にするに至りしものなり。而して本科用及び第二部用は、親しく本書によりて教授せられた

校 學 教 書 科 教

編 纂 之 要 旨

- (一) 四十餘校の各教諭諸卿が、實際に當りての意見と、著者其の後の研鑽とによりて修正改版し、講習科用亦新たに成りて、茲に統一せる師範學校國文教科書全部の完成を告げ、今や殆んど「完璧に近き模範的教科書」として獨り名聲を擅にしつゝあり。
- (二) 主として現行の師範學校學科課程に據り、なほ實地教育家の定説に鑑み、成るべく公正博大の見地に立ちて材料を蒐輯すること。
- (三) 趣味の育成、常識の發達、品性の修養、この三大要件の下に材料を撰擇すること。
- (四) 特に生徒をして觀感興起せしむべき内外教育大家の傳説、逸事及び書翰を始とし、教育に關せる趣味あり生氣ある論策、説話等を採録すること。
- (五) 普通の散文は勿論、口語文、書翰文及び韻文等もみなそれ〴〵本色あり特長あり、一を以て他を推すべからざるものなる故に、生徒の學力に應じて適當にこれを採録すること。
- (六) 生徒作文の模範は之を國文の中に求むべきものとし、毎卷取つて模範とすべき時文、口語文及び書翰文を收録すること。
- (七) 方今學生の通弊たる雜書濫讀の弊を矯め、且つ讀書の趣味を會得せしめんと期したること。
- (八) 本文の理會を確實にし、古人を尙友するに便ならしめんがため、出處正確なる圖畫、筆蹟等を挿入し、送假名・句讀點等も成るべく一定したること。



『誇張』の意味を含まずして、敢て『出色の良著』なり。……と呼びて、  
況く識者の一顧を請はんとす。……

佐賀縣唐津中學校教諭 松尾捨治郎先生著 ▲文部省檢定済▼

日本文法教本

再訂正 上製美本全參册  
郵稅價金八壹錢

▲綱要篇 上製

正價金參拾五錢  
郵稅金六錢

▲本篇 上製

正價金五拾五錢  
郵稅金六錢

▲附録 洋裝

正價金拾錢  
郵稅金貳錢

方今、中學校用國文典の世に布けるもの幾十種、されど眞に良著これなきは、均しく識者の嘆する所にして、又愛ふるところなり。而して國語教授中、文法の教授は、これが骨子として、最も肝要なるだけ、夫れだけ最も困難を感じる所にして、又教授者が最も努力を要する所なり。  
即ち本書は此の聖代文化の進歩に伴ひ、斯界の趨勢に鑑み、眞に『時代の要求に應ずべき良著』を得んことを欲し、幾多の歲月と研究とを重ねて得たるもの、新らしきに走らず、舊きに泥まず、實質あり、趣味あり、世の企望に副はしむべく、銳意専心、文法教授の上に一進歩を劃さんことを期したり。  
蓋し本書は文法の爲に、畢生を賭せる著者が『熱烈なる氣魄』の凝りて成れるもの、冀くは一瞥を吝まされ。

東京音樂學校教授 高野辰之先生編

國文學史教科書

六訂正

上製美本全壹册  
正價金六拾錢  
郵稅金六錢

本書は著者が數年來、専心に文學史を研究し、又教授に従事したる經驗に鑑み、力めて公正博大の見地に立ち、材料の撰擇、分量の多少に留意し、學ぶに楽しく知るに易きを旨とし、極めて穩健なる言文一致體を以て、文部省所定の教授綱目に據り、流暢明快に敘述したるもの、その終りに精細なる文學者年表をも附したり。蓋し國文學史教科書中特殊の異彩を放ちつゝあるものなり。

芳賀矢一先生閱 北條誠 佐藤正範先生著

日本文學史要

新刊

和裝美本全壹册  
正價金參拾八錢  
郵稅金四錢

本書は著者が多年の研究と經驗とにより、心力を傾注して編著せるもの、曩にその稿なるや、數次の歲月に亘りて親しくこれを以て實地教授の衝に當り、具さに補正の勞を重ね、漸く完璧たらんとして茲に廣く世に問へるものなり。惟ふに堪能なる實際家が長き歲月を要して、眞面目に努力せる結果に成れる本書が、必ずや類書中その趣を異にせるものあるは信じて疑はざるところなり。



必架書

東京高等師範學校教授 吉田彌平先生 共編  
東京高等師範學校講師 三矢重松先生

現代文鈔

和裝美本 四拾五錢  
正價 金 六拾五錢  
郵稅 金 錢 册

現時の文章混沌錯雜にして歸する所を知らずと云ひ、或は百花爛漫として美を競ふと云ふ、隨て此等の文を講評するの要あるは萬人の齊しく認むる所、併も之に適當せる書なきを學界の不備なりとして、本書は現代名家の手に成れるものうち、其の文と其の想とこれを慎重に選擇採録して編纂せるものなり。即ち現代の粹を蒐めたる文集として、中等以上の諸學校の教科書となすべく、又一般文界の模範たるべきものなり。

文學博士 黒川真頼先生序 飯田永夫先生校註

參考註落窪物語

和裝美本 六拾五錢  
正價 金 六拾五錢  
郵稅 金 錢 册

久米幹文先生序 飯田永夫先生校註

校註訂竹取物語

洋裝美本 全壹拾錢  
正價 金 貳拾錢  
郵稅 金 錢 册

備之書

北海道廳立札幌中學校教諭

佐藤正範先生校訂

方丈記讀本

洋裝美本 全壹拾錢  
正價 金 四拾五錢  
郵稅 金 錢 册

大和田建樹先生校訂

源氏讀本

和裝美本 八拾六錢  
正價 金 八拾六錢  
郵稅 金 錢 册

△桐壺の卷・帚木の卷(正價各金十八錢 郵稅各金四錢) △夕顔の卷・若紫の卷(正價各金廿五錢 郵稅各金四錢)▽

東京京華中學校講師

文學士 小原要逸先生編

國文講本

和裝美本 全壹拾五錢  
正價 金 六拾五錢  
郵稅 金 錢 册

本書は、中學校補習科の講讀用に充てんがために、編纂せるものなり。即ち國語科に於ける既修の智識を一層明確に印象せしむべく、進んで其の素養を十二分ならしめ、かねて其の學べるもの、總べてを自己藥籠中のものとして、練々餘裕あるの境に受験の首尾を完うせしむべく、材料の撰擇、排列其の他に就て特に意を致せり、乞ふ一瞥を賜へ。

樞密顧問官 細川潤次郎先生序  
東宮侍講 本居豐穎先生序  
文學博士 木村正辭先生撰

萬葉集美夫君志

再訂版正

和裝(帙入)類美本全四册  
正價金 貳圓五拾錢  
郵税金 八錢

不朽之良著

『萬葉集美夫君志』一帙四卷、これ國學の泰斗、文學博士木村正辭先生の撰む所、博士が碩學にして文字の學に精通せられ、殊に萬葉集に於て造詣最も深きは、既に世の普く知る所なり。由來萬葉は國文の基礎にして國歌の典範なり。然り其の雄渾にして天真、壯大にして而も爛漫たる所、古今を通じて其の匹儔を見ずと稱せらる。見るべし本書は博士が數十年來研鑽攻究せられたる結果に成れるもの、其の用字の古音古義を闡明し、誤脱を校訂したると、引證該博明晰にして釋義の懇篤なることによりて、吾が國文學界を裨益することの頗る大なるべきを信ず。  
加ふるに用紙は精良なる和紙を撰み、裝幀また日本式の美を盡くせり。詢にその内容と相俟ちて不朽に珍重せらるべき良著たり。宜なり、志あるの士が競ふてその架上に迎ふることの切にして、再版増刷の進運を見るに至りたることや。

御製・皇后宮御歌(御代筆)

宮内省御歌所長 高崎正風男題  
宮内大臣 渡邊千秋子題  
樞密院副議長 東久世通禧伯序  
宮内省御歌所主事 阪正臣先生序並閱

宮内省圖書寮 編修課員 村松清陰編

明治勅題歌集

附 宮中御歌會始式次第並 詠進者心得

新刊

上製美本全壹册  
正價金 壹圓貳拾錢  
郵税金 拾貳錢

毎年一月宮中御歌會始に於て汎く一般國民の詠進を許させ給ひ、預選歌をも披講に加へせらるゝ事は實に明治聖世の賜にして、吾等國民の最大光榮として恐懼措く能はざる所なり。本書は即ち此の崇高壯嚴にして、古雅なる御會始式の次第を詳述し、且つ詠進者の心得を説示して、新年歌御會の創始より本年に至るまで御前に於て披講せられたる歌のすべてを收め、汎く一般に大御心の尊さを知らしめ、又長へに此の盛典を傳へんとすものなり。されば吾が神代の昔より傳はり來て『國の御魂』或は『言の葉の花』と誇りもすべき國風の如何に榮あるものなるかを知るべく、歌詠むと詠まざるとを問はず必ず、一本を備ふべきものなりかし。

愛知縣第二師範學校教諭 平松折次先生著

國定漢字通覽

新刊 上製美本全壹册 定價金六拾錢 郵税金八錢

目次

本書は國定小學讀本全部十二冊に顯はれたる漢字千三百六十字を通覽し、併せて之に連係せる普通文字の異同正俗を辨じ、讀本教授者の漢字取扱の參考に資せしめんとして編纂せるものなり。

内容

即ち其初めに畫引・索引を附して其部首を擧げ、これが通俗の稱呼を記し、部首に屬する文字を列擧し、又字音假名表を附し、本篇に入りては千三百六十の新字を五十音によりて配列し、其の讀本中にて讀まれたるあらゆる讀習の場合を示すべく、一々讀本の卷號・課數・頁數を擧げ、又其の單語・熟字を記入すべく餘白を存し、字畫の正俗略體を辨じ、音訓を明かにし、同訓異義を解せる等、親切至便を極めたり。

用途

されば小學校にありては、必ず一本を備へて教授の萬全を期すべく、又一般家庭にありても兒童訓育の爲めに要用なる新著といふべし。

横井也有翁著 文部編修 武笠 三先生校註

註校 鶉

衣

新刊 大和綴頗美本全壹册 正價金六拾錢 郵税金八錢

横井也有翁が俳文の泰斗にして、其の著鶉衣が俳文の寶典、本邦文學の珍什たることは世風に定評あり。而かも之が津梁たるべきものを求むるに、前に佐々氏の評釋、後に坂本氏の註解ありと雖も、孰れも大冊の一擧に過ぎざるは趣味を俳文に有する者の常に遺憾とする所なりき。本書は校訂者が年來愛誦の餘、凡そ其の考證説明を要する所には一部の全體を通じて、具に註解を加へ、他書を引證せる所は、つとめて一々原書の文句を記入しおけるものを、新に整理して之を鉛版に附したるものなり。而して其の末尾に附録とせる也有に關する多少の新研究は識者の一讀に値すべく、冀はくは斯の珍什の光を新に明治の文壇に發せしむることを得ん乎。用紙印刷は純良裝釘亦頗る瀟洒にして綠蔭榻上の清玩に適せり。敢て一本を趣味ある愛書家諸彦の前に薦む。

の善最

最も平易簡明を旨とし力めて要點の  
把握を確實ならしめんことを期して居る

文學博士 木村正辭先生序 飯田永夫先生著

日本文典問答

廿五訂正版

洋裝美本全  
郵正稅價金拾四  
錢錢册

國語傳習所幹事 飯田永夫先生著

日本文典大意

四訂正版

和裝美本參本  
郵正稅價金拾全  
錢錢册

文學博士 芳賀矢一先生序 島岡亮太郎先生著

假名遣活法

七訂正版

洋裝美本拾全  
郵正稅價金拾五  
錢錢册

東京高等師範學校講師 三矢重松先生 光風館編輯所編

國定小學語法

再訂正版

洋裝美本四本  
郵正稅價金拾全  
錢錢册

長野縣上田高等女學校教諭 藤澤倉之助先生著

文語法と口語法との對照

新刊

洋裝美本拾全  
郵正稅價金拾五  
錢錢册

光風館編輯所編

國語假名遣一覽

新刊

折價本全  
郵正稅價金拾六  
錢錢册

周到なる用意と懇切なる記述とは恰も乳兒  
に於ける慈母の如くであると言はれて居る

參考書

廣島縣忠海中學校教諭 山田麒太郎先生著

國語科漢文必携

新刊

洋裝美金參拾五錢  
正價金六拾五錢  
郵稅金四錢

國語科にあつて生徒が難解に苦しむものは、假名遣文法上の約束・似字・同訓異義字及び文字を正確に書く能はざる等にあることは何人も知る處なる可し、即ち本書は茲に着眼し、先づ

第一章「國語假名遣」第二章「字音假名遣」第三章「送假名法」第四章「國語文法上の諸注意」第五章「漢字の正體と別體」第六章「國字」第七章「似字辨」第八章「同訓異義辨」の八章に分ちて必須の知識を與ふるべく十二分の努力を用ひ、最後に罫紙・白紙百餘頁を附し、筆記に便せしめたる等用意の周到なる新著なり。

(一) 本書は讀書・作文・文法を統一し、連絡し、生徒の文字力・作文力を増進せしめ、所謂國語科の目的を十分に貫徹せしめんことを期し編纂せるものなり。

(二) 本書は、中等學校教授要目、及び小學校令の示す時間配當に準據して編成し、力めて國語科の知識を一貫せしむべく最も好適なるものたらしめんことを期したり。

(三) されば、「作文力の不足を感じる者」「讀書力の不足を感じる者」「文字力の不足を感じる者」成績の不良を感じる者」「試験に困難を感じる者」は速に來りて此の新ノートに據るを要す。

國語科筆記帖

新刊

洋裝美金拾五錢  
正價金四錢  
郵稅金四錢

新潟縣高田中學校教諭 上田稔先生著

264

224



076901-000-0

特22-932

国語便覧

木場 喜一郎

山田 寅之助 / 著

M43.7

DAC-0064







